

記 入 日 2012年1月13日

1. 概 要

実践団体名	釜石市立釜石東中学校		
連絡先	校長 平 野 憲 (0193-23-5531)		
プランタイトル	EAST-レスキュー		
プランの対象者※1	中学生・地域住民	対象とする 災害種別※2	津波

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント!】

- 1 防災学習が、生徒・地域の人を救った! (命でんでんこ、率先避難者) 継続学習!
- 2 今年も「助けられる人から助ける人へ」を合言葉に、災害に負けない自分作りを目指す。
- 3 先生が元気→生徒が元気→保護者が元気→地域が元気→復興!
- 4 国内外の方から支援をありがとう! 感謝の気持ちを形にして届ける!

【プランの概要】2009年から防災学習・防災教育を継続!!

3, 11で校舎は全壊するも、学校にいた生徒は全員無事。小学生や地域の人と共に避難!
今年、次の5点を目指します。

- 1 元気になり隊! (助けられる人)
- 2 元気を届け隊! (助ける人)
- 3 防災(復興)ボランティアスト(体験的学習)
- 4 感謝の気持ちを形にして表す(宿泊研修、文化祭、第九コンサート等)
- 5 めざせ! EAST-レスキュー隊1級

被災したことを言い訳にせず、前向きにたくましく優しい生き方をする生徒の育成を図る。

【期待される効果・ここがおすすめ!】

- 1 防災教育は、人作り。たくましく優しい人を育てます。
- 2 地域とのつながりは「絆」。日常生活の中で構築します。
- 3 「防災学習」は、「仲間作り」横の関係ができます。
(全国の皆さん支援をありがとうございます)
- 4 日常の生活態度が向上します。
「防災」の視点から、活動の輪が広がりました。本当にありがとうございます。

2. プランの年間活動記録 (2011 年)

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
4 月			学校再開 (4/25) ①舞子高校交流会(4/28)
5 月	年間活動計画作成		避難訓練 (5/2) ②漫画家出前授業 (5/26) 元気のメッセージ作成(5/16)
6 月			③さぼーと 2 1 楽器搬入(6/6) ④昭和音大合唱指導(6/9) ⑤アルソック演奏会(6/10)
7 月		「第九」練習開始	
8 月		復興ボランティアスト 準備開始	
9 月			2 年生宿泊研修(10/5~6)
10 月		文化祭取組開始	⑥アトリエ太陽の子「サクラの木」を 描く(10/25) 復興ボランティアスト
11 月			文化祭(11/3)
12 月			かまいし第九コンサート(12/11)
1 月	活動反省		
2 月			
3 月	次年度活動計画作成		

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

タイトル	元気を届け隊1 避難者名簿作り
実施月日（曜日）	平成23年3月中旬
実施場所	釜石市立甲子中学校（避難所）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：平 野 憲 所属・役職等：校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	学校は臨時休業
プログラムのカテゴリ、形式※4	17 その他
活動目的※5	10 その他 安否確認、避難所の運営
達成目標	避難者名簿作成
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①各教室を回り、住所・氏名・年齢等を聞く ②避難所の入り口に、名簿を作成し、掲示する ③避難者名簿を市役所に送付、メディアに送付する ④避難所住人が組織的・自発的に動けるように、役割分担をする
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	①パソコンで避難者家族名簿作成 ②部屋毎の名簿作成 ③釜石東中学校避難者生徒・職員
参加人数	35人
経費の総額・内訳概要	0
成果と課題	【成果】 避難者名簿ができ、安否確認がスムーズになった。また、避難所の運営が組織的にできるようになった。 【課題】 何もない中、少しずつ考え行動しなければならなかった。支援の大切さを感じた。
成果物	避難者名簿

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	元気を届け隊2 避難所で足湯隊・肩もみ隊
実施月日（曜日）	3月下旬から4月上旬
実施場所	釜石市立甲子中学校（避難所）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：平 野 憲 所属・役職等：校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	学校は臨時休業
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 7 その他
活動目的※5	1 0 その他 （健康管理）
達成目標	避難所で笑顔の元気を届ける
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①生徒をグループ分け、各教室を回り足湯や肩もみをする。 ②足湯や肩もみをしながら何か困っていることはないかを把握する
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	①バケツ・タオル等
参加人数	30人
経費の総額・内訳概要	0
成果と課題	【成果】 ふさがちだったお年寄りに笑顔が見えた。小さい子供たちが笑顔になった。避難所に笑い声が聞こえ始めた。 【課題】 余震の不安や前が見えないことへの不安は、私たちでは何もできなかった。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	元気を届け隊3 メッセージ作成
実施月日（曜日）	5月6日から5月27日
実施場所	釜石市立釜石中学校 美術室 （間借り生活）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：糸日谷美奈子 所属・役職等：教諭（美術担当）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	5×45
プログラムの カテゴリ、形式※4	5 教科学習
活動目的※5	10 その他
達成目標	地域を元気にする
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	①生徒からメッセージを募集 ②文字を分担して作成 ③鵜住居（元の学校があった近く）の駐車場に掲示する
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	1 2年生60人 2 ベニヤ・ペンキ等
参加人数	60人
経費の総額・内訳概要	21,354円
成果と課題	【成果】 地域住民・支援して下さる方々に元気のメッセージを届けた。 【課題】 管理の仕方
成果物	メッセージボード

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	元気を届け隊4 2年生宿泊研修
実施月日（曜日）	10月5・6日
実施場所	岩手県盛岡市
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：中川和哉 所属・役職等：教諭（2学年主任）
所要時間または「コマ数×単位時間」	2日間（事前取組は総合的な学習や学活・音楽等15時間）
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事
活動目的※5	10 その他
達成目標	感謝の気持ちを形にし、伝える
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①支援をいただいた団体の選定 ②グループで訪問し、感謝の気持ちを伝える。 ③2学年全員で感謝の気持ちを歌にして、岩手県や盛岡市の人たちに伝える。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	①色模造紙・プロッキー等 ②ラジカセ
参加人数	2年生60人、職員6人
経費の総額・内訳概要	20万円（交通費）
成果と課題	【成果】 県庁・岩手県警・自衛隊・ラジオ局など、東日本大震災の時に支援をいただいた団体に直接、お礼を述べる事ができた。テレビを通じて、岩手県の視聴者に感謝の気持ちを伝えることができた。 【課題】 今後につなげる活動にするには、どうすればよいか。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 5 】※3

タイトル	元気を届け隊5 防災（復興）ボランティアスト
実施月日（曜日）	平成23年10月13日（木）
実施場所	釜石市内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師多数 氏 名：村上洋子・中川和哉 所属・役職等：副校長・教諭（整美部担当）
所要時間または「コマ数×単位時間」	当日は2×45分、準備2×45
プログラムのカテゴリ、形式※4	13 体験学習
活動目的※5	7技術を身につける 10その他（復興を意識した学習）
達成目標	中学生にできる復興を考え、行動する。感謝の気持ちを伝える。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①整美部・・・活動内容を全校生徒からアンケート、集約グループ分け、リーダー決め等 ②副校長・・・外部への交渉、講師依頼等
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	①体験学習の講師（消防署、日赤奉仕団、海上保安部、生活応援センター、地域住民） ②担架、三角巾、血圧計、球根、色紙等
参加人数	生徒187名、職員25名、地域住民多数
経費の総額・内訳概要	材料費等113,278円 バス代40,000円
成果と課題	【成果】 被災したが、今年で3回目の取り組みができた。被災経験を生かし、中学生から発信、地域住民のためになる取り組みとなった。 【課題】 今後どのようなコース設定をしていくことが必要か？
成果物	笑顔袋

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 6 】※3

タイトル	元気を届け隊6 文化祭で発信
実施月日（曜日）	平成23年11月3日（木）
実施場所	釜石市立釜石中学校内 釜石東中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏 名：平野 憲 所属・役職等：校長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	15×45分
プログラムの カテゴリ、形式※4	1 イベント・行事
活動目的※5	10 その他
達成目標	防災学習や感謝の気持ちを形にし発信する
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	1 生徒が元気になったことや心を1つにすることをソーランで表現 2 支援に対する感謝を合唱曲に込め歌う 3 防災学習の大切さを発表に込め保護者にプレゼンテーション
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	1 全校ソーラン 2 全校合唱 3 吹奏楽部の演奏 4 学年取り組みの発表
参加人数	全校生徒187名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 文化祭に防災学習、復興・支援に対する感謝の視点を入れ取り組んだ。地域の方に生徒の思いを伝えることができた。 【課題】 活動場所や活動時間などの制限の克服。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 7 】※3

タイトル	元気を届け隊7 かまいしの第九を歌う会
実施月日（曜日）	平成23年12月11日（日）
実施場所	岩手県立釜石高校 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：松村敦子 所属・役職等：教諭（音楽担当）
所要時間または「コマ数×単位時間」	40×45分
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事
活動目的※5	10 その他
達成目標	第九コンサートを成功させる（オーケストラと歌う）
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①ドイツ語で歌いきる ②パート練習を充実させる ③聴衆の皆さんに感謝と生きる喜びを伝える
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	①CD（1人で練習できるCD）ソニー提供
参加人数	全校生徒187名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 努力は成功につながる。日常を大切にすることが奇跡を起こすことにもつながる。聴衆の皆さんに感動を与えた。また、NHKの放送により全国の皆さんに発信、感謝を伝えた。 【課題】
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 8 】※3

タイトル	めざせ！EASTレスキュー隊員1級！
実施月日（曜日）	通年
実施場所	釜石市立釜石東中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：村上洋子 所属・役職等：副校長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式※4	17 その他
活動目的※5	10 その他
達成目標	防災ボランティア精神の高揚
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	①学校で防災学習をする（1年5級、2年4級、3年3級） ②自分でボランティアを実施する ③5回行ったら、2級自己申告・・・校長が認定 ④10回になったら1級自己申告・・・校長が認定
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	①ボランティアストの名札 ②自己申告用紙 ③認定証
参加人数	全校生徒187名
経費の総額・内訳概要	50,000円
成果と課題	生徒は震災の避難の時に自主的にボランティア活動への取り組みを多く行った。ボランティア活動を通して、人のためになることの喜びを知りつつある。人のために活動することが自分の喜びになっている。また、感謝されることで自分の活動を認めてもらっていることにつながっている。たくましくも優しい大人に成長している。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>平成23年は、思いがけない東日本大震災に見舞われた。学校が、地域がすべて流失した中で、学校生活をスタートさせる苦難の年であった。 何もかも失った釜石東中学校であったが、国内はもとより海外からも支援をいただきながら、学校生活を再開することができた。支援してくださった皆様に感謝します。 ＜苦勞した点＞ ①1年を見通したプランの立案は難しく、何をどこまでできるか手探りの1年であった。 ②資金の調達。材料や資料がすべて流失していたため、再構築するのに時間と費用が思いのほか必要だった。 ③支援者がたくさんあった。防災教育でつながっていた皆さんからの応援が大きかった。ありがとうございます。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>①地域が大きな被害を受け、地域住民の活動を震災前のように企画できなかった。 ②間借り校舎での活動だったので、場所の確保や講師の確保が困難だった。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>①予算の確保・・・支援者の多くのものを購入していただいた。 ②間借り校舎（釜石市内）と活動場所（鵜住居地区）に距離（約15km）があり、移動や交流の時の移動に時間を要した。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	群馬大学院	指導・助言
保護者・ PTAの組織		
地域組織	地区会長	花壇整備の協力
国・地方公共団体・ 公共施設	海上保安部 生活応援センター 釜石市役所（防災課・保健推進課）	講師派遣 講師派遣 人材派遣の紹介
企業・ 産業関連の組合等	オランダ総領事館 CSCジャパン 静岡県掛川市 松下様 産業育成センター	球根 血圧計 色紙・三角巾
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	セーブザチルドレン 日赤奉仕団	移動のバス代 講師派遣
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成22年度配布した「安否札」が震災時に活用された 2 日頃の防災学習が生かされ、生徒が自分で自分の命を守ることができた 3 避難訓練が生かされ、小学生や老人の手助けすることができた 4 大きな被害・ダメージを受けたが、早い時期に立ち上がることができた 5 中学生の目線からの復興の一助となることができた <p>「助けられる人から助ける人へ」は、継続して活かすことができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 多くの支援は、防災学習をしてきた中学生の心を育てている
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>防災教育を推進していてよかったです。</p> <p>まず、生徒の命を守ることができたこと。自分で自分の命を守り、そのうえで、災害弱者に手を差し伸べることができたことに感謝します。</p> <p>「生きていて、ありがとう」重みのある言葉です。東日本大震災から生き延びた私たちは、いま、できることを精一杯取り組んでいこうと思います。日常生活を大事にすることや地域の方々と生きることを大切にしていきたいと思っています。</p> <p>防災教育をしていたおかげで、「絆」を深めることができました。横のつながりの大切さも学びました。これまで支援していただいた皆様に感謝します。ありがとうございました。</p> <p>まだまだ復興までには時間が必要です。今後ご支援ご援助をお願いいたします。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>今後も防災教育の視点を切り口に、教育活動を推進していきます。</p> <p>何をどれだけできるか今の時点では分かりませんが、全職員同じ方向を向いて、活動を継続していきたいと考えています。</p> <p>平成24年度3月下旬には仮設校舎が完成し、4月から小中学校同じ敷地で学校生活を再開します。今後も、小中学校で防災教育を連携していきます。</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

3月11日の出来事



中学生が小学生の手を引いて避難



第2避難場所にも津波が押し寄せる



鵜住居小学校3階に車が…



釜石東中学校の体育館は跡形もなく・・・



見慣れた街はありません



私たちの家は全滅です。

生徒の7割が家を失いました。家族も失くしました。でも、前を向いて生きていきます。津波に負けないぞ！釜石は、皆様のご支援の下、立ち上がります！

(自由記述: 1/3)

1 元気になる隊 (助けられる人から) たくさんのご支援ありがとうございました。



漫画家さんの出前授業



さぼーと21さんから楽器の支援



昭和音大合唱指導



アルソックさんコンサート



海外からの支援 (心のケア)



お汁粉のお振舞とクリスマスプレゼント

他にもたくさんたくさんの支援をいただきました。ありがとうございます。

3月11日は、雪の降る寒い中、新聞紙1枚で暖をとりました。初めて口にしたのは深夜にさんまの味醂干し2人で1ぴきでした。次の日の朝、おにぎり1個がとてもおいしく感じました。何もかも失くした私達ですが、全国の皆様からの支援が本当にうれしかったです。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

(自由記述: 2/3)

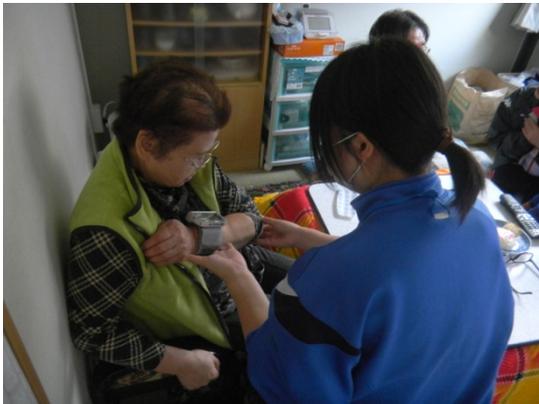
2 元気を届け隊（助ける人へ） 中学生でも皆さんのお役にたちたいのです。



避難所で足湯隊の活動



被災前のように花が咲くといいな、花壇作業



仮設住宅訪問、血圧測定



ございしょの里訪問（笑顔袋贈呈）



かまいしの第九コンサート



2学年宿泊研修ショッピングモールで合唱

この1年、生徒は様々な活動をしてきました。中学生が元気になれば、家族が元気になる。家族が元気になれば、地域が活性化する。地域が活性化すれば、釜石は復興する。中学生ができる活動を一生懸命に活動しようと、釜石東中学校は考えています。今後ともご支援、ご協力をお願いします。災害に釜石東中学校は負けません。いつまでも応援してください。

(自由記述: 3/3)